【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和3年9月9日(2021.9.9)

【公開番号】特開2020-116397(P2020-116397A)
【公開日】令和2年8月6日(2020.8.6)
【年通号数】公開・登録公報2020-031
【出願番号】特願2020-41884(P2020-41884)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｍ　1/16　(2006.01)
Ａ６１Ｍ　1/34　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｍ　1/16　１１０
Ａ６１Ｍ　1/34　１２５

【誤訳訂正書】
【提出日】令和3年7月27日(2021.7.27)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
体外血液回路と、血液ポンプと、透析器と、静脈圧センサと、置換液ラインと、制御ユニットとを有する透析装置であって、
前記制御ユニットは、血液ポンプを第１の動作モード及び特別動作モードで動作させ、トリガイベントの認識後に前記特別動作モードを開始するように構成され、前記特別動作モードでは、前記血液ポンプの搬送レートがデフォルト値を用いて制御され、又は所望値に調整され、前記デフォルト値又は前記所望値は、前記トリガイベントの認識後現在開始されている特別動作モードの開始前に決定された値から導出され、又は該値に対応している透析装置において、
前記制御ユニットは、前記血液ポンプの調整のための望ましくない所望値が前記特別動作モードに与えられるリスクを減少させるために、
前記トリガイベントの認識後且つ該認識されたトリガイベントによって開始されるべき次の特別動作モードの開始前に、前記次の特別動作モードにおける前記所望値の選択における調整を必要とする、少なくとも１つの障害の存在について、ポーリングを行うようにさらに構成され、
前記障害は、前記血液ポンプが現在、既に前記特別動作モードで動作していることであり、前記障害の存在時には、前記次の特別動作モードにおける前記所望値が現在、実施されている特別動作モードの開始前の静脈圧を基準にして固定される、
ことを特徴とする透析装置。
【請求項２】
前記トリガイベントは、閾値を上回るか又は下回ること、及び／又は置換液投与の停止、減少、開始又は増加である、
請求項１に記載の透析装置。
【請求項３】
前記置換液ラインは、前記体外血液回路の静脈ラインに開口する、
請求項１または２に記載の透析装置。
【誤訳訂正２】

【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１６
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１６】
ある実施形態では、障害の少なくとも１つが、時間的に前に行なわれ血液ポンプが特別動作モードで作動していたフェーズの開始または終了後に特定待機時間がまだ経過していないことを含む。この場合、障害の存在時におけるデフォルト値又は所望値の選択が障害の不在時の選択と異なるのであれば、時間的に前に展開された段階中の特別動作モードからデフォルト値又は所望値を引き継ぐことができる。待機期間の継続時間は、体外血液回路の静脈ラインにおける予想血液流動時間に対応することができ、或いは、例えば（１０％、２０％、３０％、５０％などの）一定のパーセンテージを控除又は追加して適応することができる。待機期間は、ユーザ入力又は機械側のデフォルト値によって厳格に固定され、或いは血液ポンプの特定の体積スループットに基づくことがさらに考えられる。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１８
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１８】
ある実施形態では、障害が、トリガイベントの存在時の静脈圧の最初の時間微分値が閾値を上回ることを含む。このことは、好適なデフォルト値又は好適な所望値を決定できない不安定な状態と同等である。この場合にも、特別動作モードのトリガが阻止され、或いは時間的に前に展開された特別動作モードのデフォルト値又は所望値が新たな特別動作モードに採用される。